

選挙啓発出前講座

実施期日

平成 27 年 11 月 19 日

平成 27 年 11 月 20 日付 北鹿新聞掲載



にする大高へ

大館高校で出前講座

選挙権引き下げ

主権者の
自覚胸に

2、3年生が模擬投票

「必ず投票に行きたい」

選挙権の年齢が来夏の参院選から「18歳以上」に引き下げられることを受け、大館高校（今泉悟校長）で19日、模擬投票などを体験する出前講座が開かれた。2、3年生185人が県選挙管理委員会から選挙の仕組みを学び、「主権者の自覚を持ち、権利行使してほしい」というメッセージを胸に刻んだ。生徒は実際の選挙で使われている投票箱に一票を投じた。

高校生対象の出前講座は県選管などが前年度から開催。本年度は14校で計画し、北鹿地方では大館を皮切りに、花輪や大館工業、大館国際情報学院で予定されている。

現3年生と、2年生の4分の1程度が来夏の選挙から投票できることから、県選管担当者は「国の在り方を自らで判断でき、選挙権を有する人が主権者と定義付けられている」と強調し、選挙の歴史や制度を説明。満18歳以上であれば選挙運動ができるが、選挙違反を行った場合、処罰されることも取り上げた。

模擬投票は「成人年齢の引き下げ」が争点。「多くの民意が社会に反映できる」とする賛成派、「精神的にも肉体的にも発達段階」とする反対

派の生徒の演説を聴き、投票用紙に候補者の名前を書き込んだ。立会人なども生徒が担当し、大館市の選挙で使用されている投票箱に票を投じた。開票作業も行い、当選

者決定までの流れを見学した。学校は本年度「主権者教育」として、税や法律などを学ぶ講座を定期的に開いており、出前講座もその一環。伊藤貴之さん（3年）は「投票の流れは予想していたより簡単で、主張を考えて投票した。必ず投票に行きたい」と話した。

6月に成立した改正公選法に選挙権年齢の引き下げが盛り込まれ、「18歳以上」となった。若年層の政治参加が目的で、来夏に予定されている参院選から適用される。

